

製品名: p53 (リン酸化 Thr18) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab05175**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300,ICC/IF 1:50-1:200
分子量	46kDa

抗原情報

遺伝子名	TP53
別名	TP53; P53; Cellular tumor antigen p53; Antigen NY-CO-13; Phosphoprotein p53; Tumor suppressor p53
遺伝子 ID	7157.0
SwissProt ID	P04637
免疫原	抗血清は、Thr18 のリン酸化部位周辺のヒト p53 由来の合成ペプチドに対して産生された。アミノ酸範囲: 1-50

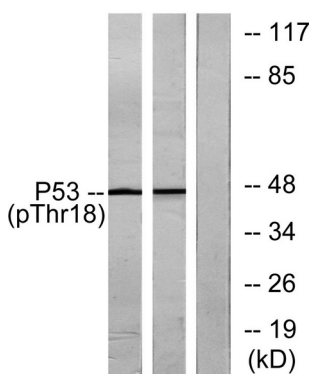
背景

核タンパク質である腫瘍タンパク質 p53 は、細胞周期の制御、特に G0 期から G1 期への移行において重要な役割を果たします。正常細胞では非常に低濃度で存在しますが、様々な形質転換細胞株では高発現しており、形質転換および悪性化に寄与すると考えられています。p53 は DNA 結合タンパク質であり、DNA 結合、オリゴマー形成、および転写活性化ドメインを有します。

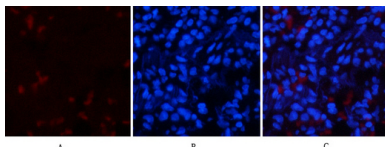
研究分野

幹細胞経路; WNT; WNT-T 細胞; β -カテニン; SAPK_JNK; AMPK; Cell_Cycle_G1S; Cell_Cycle_G2M_DNA; MAPK_ERK_Growth; MAPK_G_Protein; PI3K/Akt; Protein_Acetylation

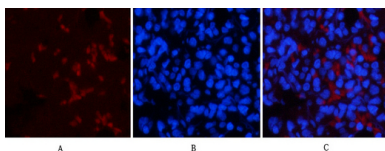
画像データ



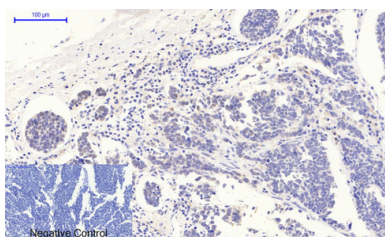
p53 (リン酸化 Thr18) 抗体を用いた卵巣癌細胞および K562 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



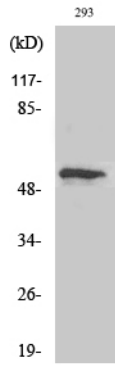
ラット肺組織の免疫蛍光染色。1, p53 (リン酸化 Thr18) ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



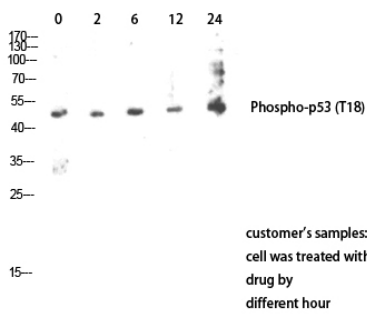
ラット肺組織の免疫蛍光染色。1, p53 (リン酸化 Thr18) ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: 標的。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



パラフィン包埋ヒト肺癌組織の免疫組織化学染色。1. p53 (リン酸化 Thr18) ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム pH 6.0 を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



リン酸化 p53 (T18) ポリクローナル抗体 (1: 2000 希釈) を用いた各種細胞のウェスタンブロット解析



リン酸化 p53 (T18) ポリクローナル抗体を用いた顧客のウェスタンブロット分析。抗体は 1:2000 に希釈した。